

会議名	令和6年度第5回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和6年12月23日（月） 午後1時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 3階中会議室2
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、多田 篤史、中橋 恵美子、 林 陽子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

（1）坂出市人口ビジョン素案について

（2）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

●会長

議題（1）坂出市人口ビジョン素案について、事務局の説明を求める。

○事務局

（資料1により説明）

●会長

前回の修正点と委員からの意見に基づいて追加した内容などの説明であった。

ただいまの説明について質問、意見はないか。

それでは、私から、最後に説明があった、本日の追加資料は、人口ビジョンに入れないのか。

○事務局

入れない。

●委員

5 ページの「平均寿命の推移」に関して、女性は全国平均並みだが男性は全国平均より低いとの表現がある。この点は、その後どこにも出てこないが、ここでこのように表現するの
みで、対応方針などには書かれないのか。この点について教えて頂きたい。

●会長

5 ページにグラフ、4 ページに説明があるが、男性の平均寿命が短い理由やその対策につ
いて、事務局から説明をお願いする。

○事務局

この資料では、数値的に捉えた客観的な部分を伝えている。これに限らず、他の動きや就
業率などでも、その説明を文章として記載している点をご理解願いたい。

●会長

他に。

●全委員

なし。

●会長

その他、特に意見がないようなので、第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議
の基礎資料となる「坂出市人口ビジョン」について、これをもって成案としてよろしいか。

●全委員

異議なし。

●会長

それでは、これで議題（1）については終わる。

次に議題（2）第3期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について事務局の
説明を求める。

○事務局

(資料2により説明)

●会長

前回委員からの指摘事項を踏まえて修正との説明であったが、ご意見、質問はあるか。
特に前回コメントした委員の方、確認をお願いしたい。

●委員

私がコメントしたものではないが、22ページの「1. コンパクトで暮らしやすいまちづくり」の目標値について、今回70万人と書かれているが、試算方法を教えていただきたい。

また、同ページの「3. 市民との共創によるまちづくり」にある、出前講座の実施回数は令和5年度が206回、令和12年度が250回の目標値となっているが、そもそもこの出前講座は、行政からの積極的かつ能動的なアプローチなのか、むしろ市民側からの要請により出向いていくものなのか、その取り組みの仕組みを教えてください。

○公民連携・DX推進課

中心市街地活性化公民連携事業に伴う駅前拠点施設の来館者数を60万人から70万人に目標値を置き換えた根拠や算定方法については、現在、既存の坂出市の図書館や公民館、文化・福祉センター、子育て支援施設の利用者は、令和5年度で合計20万人弱にしかならないが、実際複合施設を建設した近隣施設などを勘案して、当初60万人を目標値に置いた。しかし、目標数値なので、もう少し高みを目指そうということで、今回70万人という数値を置いた。ちなみに、高梁市図書館は65万人、マルタスは70万人との数字なので、本市も高い数値を目指すことから、70万人とした。

●委員

既存の施設利用者数プラス50万人の目標値であるということ으로理解した。

○秘書広報課

出前講座の質問に関して回答する。こちらは、各課がどのような講座を開催するかを年度の初めに市民に示している。その中で、最近多いのは、防災・災害関係や健康、介護予防対策などの講座が多い。回数については、老人会や自治会など市民グループからの要請

により実施した回数を計上している。回数的には、令和5年が206回、令和12年が250回と44回の増加と微増ではあるが、そのような数値を目標としている。理解のほどよろしくお願いしたい。

●委員

毎年、恒常的に要望する団体もあるので、数値目標には、そのようなニーズもさることながら、何か新しいプログラムを坂出市から発信することが必要である。それらも含めてのプラス50ぐらいということか。

○秘書広報課

その通りである。年度初めに各課と話をし、受講が少ない講座は内容を若干変えるなど改善し、人気のある講座は引き続き実施している。

●会長

前回、委員から提案のあった「ダブルケア」についても本文に入れ込まれている。この表現でいいか。

●委員

短期間に、本当に見やすくコンパクトにまとめていただいた。「ダブルケア」が本文にあるが、予算とKPIには出てきておらず、どのように連動していくのかに関心がある。文言が本文に入ることに意味があると思っている。

特に子育てに関するKPIで、18ページの「2. 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」において、地域子育て支援拠点事業の利用者数は、子育ての計画を抜粋してここに掲載したと理解できる。しかし、生まれる子供の数がどんどん減っている中ではあるが、利用者を去年より少ない数字にするわけにはいかないもので、少しずつ増やしていると思う。子育て支援拠点の頑張りにより、目標数値よりも来ているので、もっといけるのではないかと、ということになるが、生まれてくる子供が少なくなっている中で、生まれる子供の何割など、パーセンテージで目標を設定しなければ、母数が減っている中で高い目標人数を達成するのは難しいと思う。いつまで、どこまで頑張ればいいのかと現場がなると思う。

もう一つは、中心市街地活性化において、中心市街地に子供向けのフロアを持った施設ができることを考えると、駅前施設は子育て支援拠点ではないと思うが、子供の居場所が

できるという意味から、うまく分散するので、この数値が適当かどうかを見直す必要があるのではないかと思います。また、その下にある一時預かり事業についても、「誰でも通園」の制度が始まるので、一時預りのニーズは減る可能性があるかもしれない。それは、前向きな結果として減っていくのではないかと。つまり、他の仕組みができたために、この仕組みのみを使う人が減るということであり、複合的にみて、目標数値を今一度見直した方が良いのではと考える。

○事務局

委員の指摘は、ごもっともである。子育て以外のその他の部分についても令和7年度の事業の目標値を定め、中間見直しも予定している。

市の施策によらず、外的な要因で数字が大きく影響を受ける面もあるので、随時見直しを図りつつ目標達成に向けて、市全体で達成に向けて努力する。まずは、これら数値を目標におき、毎年度、KPIの達成状況や社会環境の変化を考慮しながら随時見直しを図ることをご理解頂きたい。

●委員

21ページの「4、多文化共生のまちづくり」に関して、22ページにKPI指標として、「住環境に満足する外国人住民の割合」を令和12年度に80%としているが、住環境に満足するというのは、ハード面ではなく、いわゆるソフト面として「坂出に住んでよかった」と思われる方が増えるということなのか。

○事務局

外国人住民の方に関しては、社会動態で見ると、令和4年度と5年度にかなり増加しており、坂出市にもかなりの方がいらっしゃる状況である。その中で、坂出市の人口課題として、今いる住民の方の満足度をしっかり上げていくことが市としてできる部分であり、まずは、住んでいる所の住環境を含めて満足度を上げることを指標として設定している。

●委員

ハード含めてということだと理解した。外国人に対して、地域の理解を深めるために異文化国際理解講座や異文化理解イベント等の開催は、大切な機会だと思うが、逆に外国人住民に対しても、日本や坂出の良さを知ってもらう取り組みがあれば良いと感じる。

○秘書広報課

今のご意見の通り、外国人の数が増えてきており、その方達に日本の良さを感じ取ってもらい、覚えてもらうイベント等を実施している。最近では、大橋まつりに坂出市内の外国人に参加してもらい、2年続けて総おどりを一緒に踊るなど、参加された方にも大変喜んでいただいた。今後も、引き続きやっていこうと思っている。

また、今月から、地域国際交流推進マネージャーとして地域おこし協力隊に着任してもらっている。市内に住んでいる外国人が、どのような状況にあるのか、また困りごとはないかなど、各会社のリーダー的な外国人の方と話をし、コミュニティの横の繋がりが希薄な面を補っていきたいと考えている。先ほどのKPIに挙げたアンケート調査を含め、色々な意見を取り入れて改善を図っていききたい。

●会長

せっかく出に住んでおられるので、しっかり坂出市の味方になっていただくのが良い。

●委員

国際交流推マネージャーの方は、地域おこし協力隊なので地元の方ではないと思うが、どのようなスキルを持った方なのか。あるいは他のエリアでどのような実績を積まれた方なのか。

○秘書広報課

地域おこし協力隊は、ご存知の通り、関東圏や関西圏、中部圏、いわゆる都市から各地域に移住される方が主である。本市に12月に着任されたのは、ご夫婦で、奥様が、国際交流の担当、旦那様は、移住担当で政策課に着任した。奥様は、客室乗務員の経験があり、その後、東京でブランドショップの店長を務めるなど多才な方であり、国際交流に熱意がある方である。

●委員

ご夫婦共々、期待ができそうなので楽しみにしている。

私は、この文言を見て何か特別なスキルが必要なのかと思った。もちろん、その点からでもキャビンアテンダントを経験された方であれば問題ないと思うが、例えば、日本語教

室の資格保持者などは、潜在的に坂出に多いと聞いているので、そういうコミュニティとこの推進マネージャーとのネットワークを作るため、市が把握している範囲で繋ぐなどして、より地域に密着した有効な活動をしてほしいと思う。よろしく願いしたい。

○秘書広報課

承知した。

●委員

今の外国人のことに関連して、外国人が増えるということは、子供も増えるということであり、学校や幼稚園、保育園にも日本語を教える方や保護者の方でも日本語が理解できない方もいるので、それらのフォローが大切である。

外国人の方を増やしていく意図があるのであれば、フォローも一緒に増やす必要があり、通訳、さらには小学校、幼稚園、保育園や自治会など生活面に関するフォローがとても重要と思う。その点はどうなっているのか。

○学校教育課

外国人の子供達の指導については、4月の学期始まりには、月に何時間ということで県から日本語指導の指導員が配置される。しかし、学期途中から入る子供も増えており、その場合は追加の配置が困難なため、坂出市から、退職教員に日本語指導をお願いしている。指導内容については、日本語指導が中心であるが、学校生活面での指導も同様に行っている。

しかし、その時間が十分かと言うと、なかなか厳しいものがあり、これからも少しでも多くの時間を子供達の日本語指導と生活指導に充てられるように考えていきたい。

●委員

教育委員会の方でもそのように聞いているが、予算や人材含め諸々が足りず、大変とのことである。市全体として、働き手を受け入れるのは良いが、その子供のケアや意思疎通を保護者ができない場合もあるとのことから、先生のケアなど、市全体として考えていただけたらと思う。ただ人口を増やそう増やそうではなく、外国の方ファーストもだが、先生はそれだけでなく今とても大変なので、先生や学校側ファーストも、フォローをしっかりしていただければと思う。

○総務課

自治会にこういう人は入れるがこういう人は入れないということは基本的にはないものと認識しており、自治会に加入するにあたっては、各自治会長が対応していると思う。実際のところ、外国人の方が自治会に入っているかどうかは、把握できていないが、今後、連合自治会長の集まりなどで、外国人の方の現状を聞いたり、加入するニーズがあるのであれば、協議することを考えたい。

●委員

多文化の教育に関して、不登校の方がかなりいる状況である中で、それをどの程度受け入れる気持ちがあるのか。また、将来的に日本に住む方は、普通の公立小学校に行くことが望ましいと思うが、長く住む予定でない方は、特別な学校にいた方が良いのではないかなと思う。したがって、不登校の方の心の安心からも、その方に向けて将来的にどのように学習するための施設を作るのか、それに合わせて、多文化の人を吸収する方が便利なことではないのかなと思う。

先ほど、人口ビジョンで申し上げた、男性の健康寿命が短い件に関して、仕事での労災で亡くなる方がいらっしゃるのかもしれないが、この件に全く触れないのも問題があると思うため、ウォークブルのところで病院が三つもある地区であると述べているので、健康面も考慮したまちづくりができるようにウォークブルなまちづくりに入れたらよいのではないかと思い、検討をお願いしたい。

○学校教育課

外国籍の子供達の教育について、学校としては基本的にすべて受け入れることにしている。そもそも、外国人の方が日本の教育を受けなければならないわけではないが、文科省も言っているように、受け入れ希望がある場合には100%受け入れられるようにしている。

●委員

費用の話が出たので、各学校に言葉の教育に出向くより、一か所に来ていただいた方が費用や便利が良いのではと思った次第だ。

●会長

健康面を考慮したまちづくりについて、事務局から回答願いたい。

○事務局

健康面についてまちづくりのところに inser する件、文言については、追加を検討したい。

●会長

19ページのウォークアブルのまちづくりのところに、「健康面」の文言を入れることで検討をお願いしたい。

14ページの2. ②の若者と地元定着とUターンの促進のところで、それを加えて頂き感謝する。ここに、Uターンの文章とKPIが示され、KPIは、Uターンも含めた移住者であり、KPIにしないまでもUターン者を増やす施策を具体的に考えてもらいたい。ダブルケアや今年採用された地域おこし協力隊により移住者を増やすとのことだが、普通の移住者であれば、日本中がターゲットとなるが、Uターンに限ると絞り込むことができるので、着実に増やせるのではないかと考えている。すでに交流人口として深いつながりがある方に、いかに地元に戻ってもらうかが重要ではないか。それには、ダブルケアや色々な施策があり、特に地域おこし協力隊でもUターンで地元に戻って活躍されている方もいることから、そうした方策もあると思うので、文言として書く必要はないので、合わせて検討をお願いしたい。

19ページのウォークアブルなまちづくりに「健康面を考慮したまちづくり」に関する文言を加える検討を願うとの意見である。これも含めて本日の意見を踏まえた修正箇所については、事務局と調整し修正することを会長に一任頂きたい。よろしいか。

●全委員

異議なし。

●会長

反対意見はないので、本素案を承認する。なお、文言の修正は、会長と事務局で調整することとする。

それでは、今後の日程について事務局の説明を求める。

○事務局

今後の日程について、まず、本日承認された第三期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案に関して、先ほどの決定の通り会長と事務局で精査、修正を行う。

その後、パブリックコメントを実施した上で、議会への説明を行い、令和7年3月には、

第三期の総合戦略として確定する予定である。

●会長

他に何かあるか。

●委員

この総合戦略が策定された後、その下に詳細な政策・施策が位置づけられると思うが、それらについては、市に任かせることになるということでもいいのか。

●会長

たしかに、以前は項目が多くあったが、それがかなり絞り込まれている。事務局から回答をお願いする。

○事務局

この総合戦略は、人口増加対策の計画として策定したものであり、今後市の方では、個別計画を各課が作っていくことになる。それらの計画は、この総合戦略を踏まえて、それぞれが策定・調整していくことになる。この総合戦略の下に個別の計画が別途作られるわけではない。来年度は、基本構想が策定される予定で、それはもっと大きな理念に関するものであり、この最上部となる基本構想の下には、個別計画が紐付けられる。総合戦略も基本構想の下に紐づくような計画の一つとの位置づけである。

●委員

承認後に申し訳ないが、大事なことだと思うので、意見したい。

先ほどの意見に関連して、男性の平均寿命が短いことにも関連すると思うが、国の戦略の中で流行り言葉のように「ウェルビーイング」という言葉が使われている。

身体的、精神的、社会的に良好な状態をウェルビーイングという捉えの中で、体の健康だけではなく、精神的にも辛い方が非常に増えている中で、坂出市の総合戦略の中に「市民にとってウェルビーイングなまち」を、先ほどのウォークアブルのところにに入れるべきなのか、どこに盛り込むことが最も適切なのかわからないが盛り込んでどうか。そもそも健康について触れているところが少ない。

健康となると多くを書く必要があるので、どこか文章の中に一言でも、「ウェルビーイ

ングのまちづくりを支援します」といった言葉があっても良いのではないかと。今から令和12年までなので、このキーワードが今後、スタンダードなフレーズになるのではないかと考えた。

●会長

一応承認されているが、この文言も含めて修正するという事で、委員の方々よろしいか。

●全委員

異議なし。

○事務局

ウェルビーイングという言葉は、政府でも良く使われている言葉であるという説明をいただいた。この総合戦略の流れの中のどこに入れればよいかを含め検討させて頂きたい。

●会長

ご意見に感謝する。総合戦略は委員会で案が承認されたが、文言に関しては、本日指摘のあった点及び追加されたものを事務局と調整させていただく。

3. 閉会

○事務局

皆様には、専門的知見から貴重な意見を頂き、感謝申し上げます。以上で第5回坂出市 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。